

姫路の衣川製鎖「鉄のふしぎ博物館」

3周年記念イベント

あすまで 工作教室や「隕鉄」贈呈

姫路の地場産業である鎖製造の衣川製鎖工業(姫路市)で3日、社内博物館「鉄のふしぎ博物館」の開館3周年を記念したイベントが始まった。衣川良介社長(66)の探求心が高じて、国内外から集めた鉄鉱石や鉄製品は300点以上。工作教室や宇宙から落ちてきた「隕鉄」などのプレゼントを行っている。5日まで。

衣川さんは家業の鎖づくりに携わる中で鉄に興味を抱き、関連書籍をはじめ、各地の砂鉄や鉱物の収集を始めた。その魅力を子どもたちに伝えたいと、2007、08年の夏休みに「ミニ博物館」を開催。09年7月に常設博物館を設けた。

愛好者からの寄贈も

多く、国内最大級といわれる岩手県釜石市の「もち鉄」(磁鉄鉱)や、4千〜5千年前にアルゼンチンに落ちた「隕鉄」なども。見るだけでなく、触れたり、磁石がくっつくか試したりできる。

江戸時代の「寛永通宝」など古銭のコレクション

も豊富だ。「国の財政が悪くなると貨幣の質も悪くなり、鉄の比率が増える」と衣川さん。科学だけでなく、歴史や経済についても考えるきっかけにしてほしいという。

要予約。イベント終了後も見学可能。同社 79・234・1515 (広岡磨璃)



博物館を開いて3年を迎え、記念イベントを開いた衣川良介社長。「夏休みの自由研究にぜひ」―姫路市飾磨区阿成渡場、衣川製鎖工業